

3 不名誉な死

- とこ
寝床のぐるりを我ら四人が囲んでいた
司祭が傍らで 跪^{ひざまず}き 吊いの祈りを捧げていた
私と彼の母親は頭の方に立ち
その花嫁はその足に縋^{すが}って泣き崩れた
その眼^{まなこ}はかっと見開かれていたが 5
彼が息絶えていることは明らかだった
- 夜には逝^いかず
昼にも逝^いかず
明け方の薄明かりの中
その魂は逝^いった 10
日の光も月明かりもなく
木々がただ灰色に染まっている時だった
- 剣で殺されたのでも
騎士の斧や槍で殺されたのでもなかった
我が同胞^{とも}はここに戻って 15
一言^{ひとこと}も発することはなかった
私は愛する同胞^{とも}の首に巻かれた縄を
切り離れた
- 背後から襲ってきた卑怯者に
同胞^{とも}は剣をひと振り報いることもできなかった 20
シデの葉に辺り一面を覆われた
道ならぬ道
揺れ動くクマシデの枝のため
薄明りでは何も見えぬ道でのこと
- 奴らは大きな松明を掲げ 25
我が同胞^{とも}の両腕を縛り上げた
フェンのサー・ジョンと
ドロラス・ブラストのサー・ガイは
七十人もの騎士と共に
勇敢なるサー・ヒューを吊るし首にした 30

いま ^{よわい} 齢七十を迎え
この髪はすっかり白くなった
だがずっと昔の夏のある日
フェンのサー・ジョンと対峙した
その命を奪った刹那を思うと 35
今も誇らしさに胸打ち震える

いま ^{よわい} 齢七十を迎え
力はや衰えつつある
だがずっと昔 空が雲に覆われたある日
沼地の葦に霧立ち込める中 40
私は家来たちと共に
ドロラス・ブラストのサー・ガイを仕留めた

さあ 騎士たちよ
真の騎士 忠実な騎士
サー・ヒューに祈りを捧げてくれ 45
彼の妻アリスのためにも祈ってくれ

(宮原牧子訳)